

2026 年度（令和 8 年度） 夏の特別展 開催要領

仙台市科学館

1 名 称 深宇宙展 ―人類はどこへ向かうのか―

(キャッチコピー：見たくないか？驚異の宇宙が仙台にある)

2 趣 旨

(1) 本展は、当館初となる「宇宙」をテーマとした特別展である。「アルテミス計画」のために日本が開発している有人月面探査車の実物大模型を東北で初公開し、あわせて、大画面映像で体感する火星ツアーなど、最新の宇宙探査技術とその成果を紹介する。これまで各地の宇宙関連展示等で展開されてきたコンテンツに加え、仙台市科学館が築いてきた研究機関や関係団体とのネットワークを活用し、内容をさらに発展させた展示を一堂に集結することで、人類の新たな宇宙への挑戦を紹介する日本最大級の宇宙技術の特別展とする。

(2) 本展は、NHK プロモーションが企画し、令和 7 年度に日本科学未来館および豊田市博物館を会場として開催され、多くの来館者から好評を得た。その功績が評価され、内閣府主催の第七回宇宙開発利用大賞において文部科学大臣賞を受賞した実績を有する。この実績ある本展をさらに発展させ、「宇宙」をテーマとした特別展をこれまで実施していない当館において、仙台市天文台と連携して開催する意義は大きい。仙台市、宮城県、さらには東北地方の人々に対し、宇宙開発の最前線を紹介するとともに、宇宙への関心や理解を深める機会を提供する。また、本展を通じて最先端の科学技術に触れることで、子どもから大人まで幅広い世代が未来への想像力を膨らませ、科学への興味・関心を高めることを目的とする。

3 開催期間 2026 年 7 月 18 日（土）～同 8 月 30 日（日） 開催日数 38 日間

休館日 7 月 21 日（火）、27 日（月）

8 月 3 日（月）、17 日（月）、24 日（月）、27 日（木）（期間中休館 6 日間）

4 会 場 仙台市科学館

2 階 特別展示室、第 3 実験室、第 4 実験室前 他

3 階 エントランスホール、企画展スペース

5 主催・共催・後援等（予定）

(1) 主 催 仙台市教育委員会

(2) 主 管 仙台市科学館、仙台市天文台

(3) 共 催 NHK 仙台放送局、NHK エンタープライズ東北支社

(4) 企画協力 日本科学未来館

(5) 後 援 文部科学省、内閣府宇宙開発戦略推進事務局、宮城県教育委員会

(6) 協力機関 宇宙航空研究開発機構（JAXA）、自然科学研究機構国立天文台（NAOJ）、東京大学、理化学研究所（RIKEN）、一般社団法人 SPACETIDE、一般社団法人宇宙旅客輸送推進協議会、ミヤギテレビ、東北大学、北九州市科学館、SMMA

(7) 監 修 戸梶 歩氏（宇宙開発エバンジェリスト）

(8) 天文分野監修 平松 正顕氏（自然科学研究機構国立天文台 天文情報センター副センター長）

6 入館料

仙台市科学館条例第五条第二項に基づき、特別展の入館料を他施設の同様の特別展入館料も加味し、下記のとおり定め、高校生以下の入館料を抑え、幅広い世代への来館を促す。

一般：1,600 円 高校生：600 円 小学生・中学生：300 円

ただし、特別展の入館料を納入したものは、常設展を無料とする。

7 内 容

(1) 概 要

人類は現在、かつてない宇宙探査の時代を迎えている。アポロ計画からおよそ半世紀を経て、再び月へ宇宙飛行士を送り、将来的には火星における有人探査を実現しようとする動きが現実味を帯びている。本展は、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、国立天文台、東京大学をはじめとする我が国の主要な宇宙研究開発機関並びに宇宙開発に携わる企業・団体の協力により実現したものである。会場には、「アルテミス計画」のために日本が開発している有人月面探査車の実物大模型（東北初公開）をはじめ、大画面映像による火星探査体験など、最新の宇宙探査技術とその成果を一堂に集めて紹介する。月を越え、火星へ、さらに深宇宙の謎へと挑む人類の新たな宇宙開発の姿を体感できる展示内容になっている。あわせて、子どもにも理解しやすい解説や体験型展示を設け、幅広い世代に対して宇宙への関心と理解を深める機会を提供する。また展示映像では、ナレーターとして NHK 番組「フロンティア」で語りを務める俳優の蒼井優氏が展覧会をナビゲートする。

(2) 内 容

本展のメイン会場である 2 階特別展示室では、人類が挑んできた宇宙開発の歴史と最前線、そしてその先に広がる宇宙の未来までを、以下の全 4 章で紹介する。また、仙台市天文台と連携し、天文台にてプラネタリウム投影及び展示を行う。

「第 1 章 宇宙開発の最前線」

宇宙への入り口となるロケット技術を紹介。日本の次世代ロケット「H3 ロケット」の先端部（フェアリング）の実物大模型を中心に、宇宙での多様なミッションを支える最先端技術に注目する。

また、気象観測、GPS、通信、災害監視など、私たちの暮らしを支える人工衛星の役割を紹介。さらに、国際宇宙ステーション（ISS）や、宇宙ビジネスの成長により広がる民間宇宙事業も紹介する。

※前澤氏が帰還時に搭乗したソユーズは 3 階エントランスに展示予定。

「第 2 章 月に広がる人類の活動域」

米国主導の有人月面探査「アルテミス計画」において日本が役割を担う、有人と圧ローバーや LDA 等を中心に紹介する。実物大模型としては東北初公開となる月面探査車「有人と圧ローバー」は必見。

また、SLIM の月面軟着陸成功や、今後の月面探査計画など、日本独自の月探査についても紹介する。

※有人と圧ローバーは 3 F エントランスに展示予定。

「第 3 章 火星圏探査の最前線」

NASA の火星探査車、ESA（欧州宇宙機関）や中国の火星探査計画など、世界各国が進める火星探査。そこで得られた画像や地形データをもとに製作された展示映像「火星ツアー」で臨場感あふれる火星の風景を体感できる。また、JAXA の火星衛星探査計画「MMX（Martian Moons eXploration）」は、火星の衛星フォボスからサンプルを持ち帰る世界初の挑戦となっている。2026 年度打上げ、2031 年度帰還予定となる「MMX」探査機の模型を展示し、その概要を紹介する。

「第4章 さらなる深宇宙へ」

多様な天体が存在する太陽系。その成り立ちを知るうえで貴重な資料となる、小惑星探査機「はやぶさ」「はやぶさ2」が持ち帰った小惑星の粒子（実物）を展示する。

また、「アルマ望遠鏡」や「XRISM」など最先端の観測技術が捉えた、宇宙の神秘と未解明の謎を仙台市科学館でのオリジナル映像として作成し、大迫力の360°シアターで上映。

「別章 仙台市天文台連携 MMX 火星衛星探査計画」

仙台市天文台と連携し、本展をより一層盛り上げる。会期中は毎日、展示室内にて連携展示「タイトル未定」を実施し、MAXI（全天 X 線監視装置）、CALET（高エネルギー電子・ガンマ線観測装置）、NinjaSat（超小型汎用 X 線観測衛星）の模型をそれぞれ展示する。また、プラネタリウムでは、連携投影「MMX 火星衛星探査計画」を7月4日（土）～11月30日（月）の期間で上映する。

8 関連イベント（講師・日程等は調整中）

宇宙飛行士、宇宙工学研究の第一人者を招待し、以下の関連イベントを開催する。

（1）講演会① 「太陽系探査計画の推進と探査技術の開発（仮）」 7月19日（日）または20日（月）

講 師 東京大学大学院・工学系研究科 教授 宮本 英昭氏
会 場 3階チャレンジ・ラボ

（2）講演会② 「MMX 制作秘話（仮）」 7月26日（日）昼

講 師 有限会社ライブ 代表取締役・映画監督 上坂 浩光氏
会 場 3階チャレンジ・ラボ

（3）講演会③ 「宇宙開発最前線（仮）」 8月8日（土）

講 師 大手民間衛星製作所・宇宙工学エンジニア ベルナドア 美奈氏
会 場 3階チャレンジ・ラボ

（4）講演会④ 「宇宙の先に、どんな未来が見える？（仮）」 8月15日（土）

講 師 東北大学大学院・工学研究科 教授 吉田 和哉氏
会 場 3階チャレンジ・ラボ

（5）講演会⑤ 科学講演会「作って飛ばそう！ みんなのロケット」 8月29日（土）

講 師 東北大学大学院・工学研究科 准教授 高橋 聖幸氏
会 場 3階チャレンジ・ラボ

（6）「せんだい宇宙ラボ」 会期中毎日開催

協 力 株式会社 宮城テレビ放送

会 場 2階 第2～4 実験室、3階 エントランスホール、3階 企画展スペース

※企画展スペース展示は7月4日（土）～9月27日（日）

9 運営・広報等

（1）展示室内にインストラクターを配置し、見学者への解説や誘導を行い、展示内容の理解を促す。

（2）市政だより、科学館 HP、科学館 SNS“X”を活用した広報を積極的に行う。

（3）令和8年7月～8月に仙台市地下鉄全駅のイベントボードへのポスターの掲示を行う。

（4）令和8年7月16日（木）または17日（金）に報道関係者向け内覧会を実施する。

- (5) ポスター、リーフレットを制作し、主に市立幼稚園・保育園や小中学校・高校・大学、市内の各施設及び宿泊施設等に配布・掲示する。また、東北地区の科学館等施設にポスター及びリーフレットを配布する。
- (6) 売店では、関連グッズを取り扱う。